

今回の研修会は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、オンラインで開催しました。

今回、「最近注目の“コミュニティーナース”ってなあに？～人とつながり、まちを元気にするコミュニティーナース～」のテーマで、Community Nurse Company 株式会社取締役の中澤ちひろ氏にお話をいただきました。

1 コミュニティーナースとは？

コミュニティーナースとは、職業や資格でではなく実践の在り方のこと。地域の人の暮らしの身近な存在として、「毎日の嬉しいや楽しい」「心と身体の健康と安心」をまちの人と一緒につくっていくことで、well-being な社会をめざすもの。

きっかけは、代表者のお父様が若くして末期がんで突然亡くなられたこと。もっと早く身近な場所で働きかけができなかったのかということだったそうです。地域の様々な分野の人と一緒に身近なところから、健康や幸せに繋がる地域づくりをしたいという思いで、島根県雲南市に移住し、コミュニティーナースのモデルづくりを開始したとのことでした。

コミュニティーナースは、暮らしの身近な場所で活動する中で、まちの声を拾い、必要な活動とともに生み出していくこと、まちの機能を活かして多角的なアプローチを行うもので、実践するのは、専門家だけではなく、まちの人々などであり、提供者、受益者という関係性を越えた、当事者同士が担い手になり得るものだそうです。

実践例では、村で唯一のガソリンスタンドにコミュニティーナースが常駐して行う健康相談や、シェアオフィスを営業しながらの健康相談のほか、買い物難民の多い地域での移動販売における食事のアドバイスなど多様な活動をご紹介いただきました。また1部の終わりに、コミュニティーナースのイメージについてグループディスカッションを行い、コミュニティーナースを実践するにあたっての経営をどのようにしているのかや継続していくために行政と企画の連携をどのようにしているのかなどの質問がありました。

2 コミュニティーナースが当たり前前の社会になるモデルづくり

コミュニティーナースの育成をし、事業化をすることで、組織や地域に存在をさせ、well-being な社会づくりをめざして活動されているとのこと、実際のモデル事業をご紹介いただきました。

1つは、「ナスくる～toC 事業～」 「コミュニティーナースがくる」を事業名にしたもので、個人に対し、身近に安心できる存在として健康づくりのサポートを有償で行う事業です。高齢者を対象に離れて暮らすご家族からの依頼を受け、健幸を高めるような予防に力点をのいた健康づくりのサポートをするというものや、企業からの依頼

を受け、コロナ禍での社員の健康管理をリモート面談により行い、定期的な対話から潜在的な不調者を検知するという「リモートナスくる」を展開しているそうです。

2つ目として、2020年6月に雲南市から成果連動型の地域貢献事業として委託を受け展開している、みんなでコミュニティナースするモデルづくり「地域おせっかい会議」についてご紹介いただきました。地域のなかでおせっかいができる人を増やし、つなげることで、暮らしの中で皆が得意な分野を活かしながら、お互いにおせっかいをしてくというまちづくりの仕組みを実践しているとのこと。行政が行うのではなく、地域住民同士で自発的に行うことで、「誰もが誰かの元気を応援できる！健康おせっかいに溢れるまち」を目指しているそうです。この会議については、エビデンスが蓄積されつつあるようで、論文や地域在宅看護論の教科書などでも取り上げられており、現在は、豊田市や更別村などでも展開をしているとのことでした。

最後にグループワークを行い、コミュニティナースの取り組みについての感想や自身の身の回りでどんなコミュニティナースの活動が生まれるとよいかというテーマで話し合いを行いました。仲間づくりをどのようにしていくのかや家族が支援できない人へのアプローチ方法などについて参加者の皆様から質問がありました。

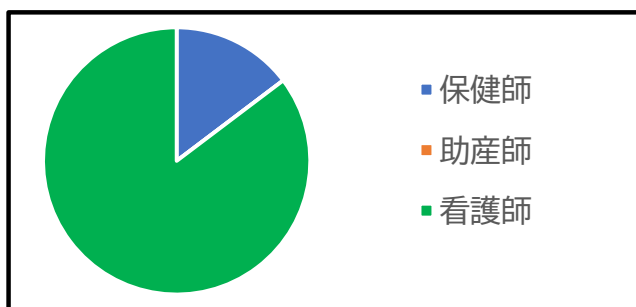
今回の研修では、コミュニティナースという、新たな活動の在り方とその実践例を具体的にうかがい、健康なまちづくり、well-beingな社会づくりの一つの形が見えたように思います。自分の身近なところで、どのような活動ができるのか考えさせられる非常に興味深いお話でした。

研修名	令和4年度 第1回 保健師職能委員会研修会 タイトル：「最近注目の“コミュニティナース”ってなあに？ ～人とつながり、まちを元気にするコミュニティナース～」 講師：中澤 ちひろ氏 Community Nurse Company 株式会社 取締役
	
研修年度	2022年度
研修日	令和4年10月14日（木）
開催方法	オンライン講習（Zoom）
研修時間	13時30分から16時30分（受付13時00分から）
参加人員	申込者 93名 参加者 72名 内訳（会員 63名、非会員 9名） 職種（保健師 9名、看護師 61名、その他 2名）
会場	神奈川県総合医療会館 第1研修室より Web 配信

◆令和4年度 保健師職能委員会第1回研修会（回収数34） R4.10.14

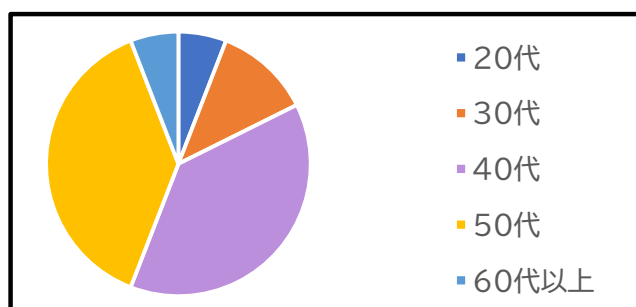
(1) 参加職種

保健師	5
助産師	0
看護師	29



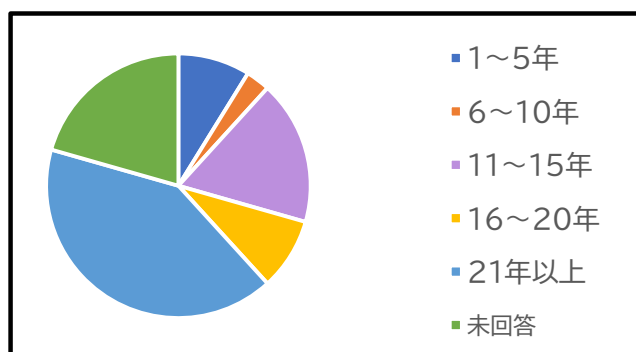
(2) 年代

20代	2
30代	4
40代	13
50代	13
60代以上	2



(3) 経験年数

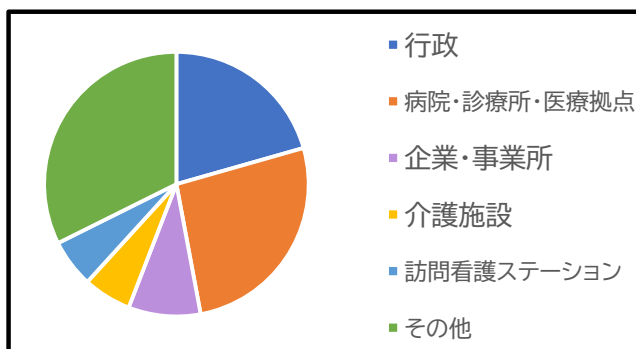
1～5年	3
6～10年	1
11～15年	6
16～20年	3
21年以上	14
未回答	7



(4) 所属

行政	7
病院・診療所・医療拠点	9
企業・事業所	3
介護施設	2
訪問看護ステーション	2
その他	11

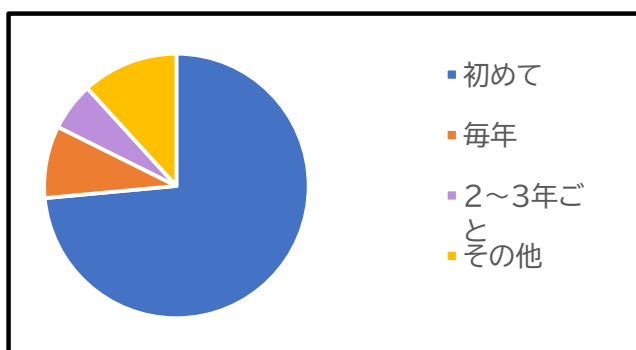
・その他：地域包括支援センター、
看多機、無職等



1 保健師職能委員会の企画する講演会や研修会の参加状況

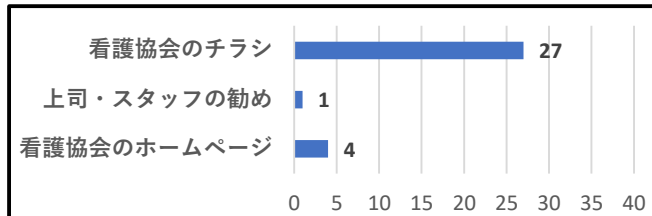
初めて	25
毎年	3
2～3年ごと	2
その他	4

・その他：不定期、2回目等



2 研修をどのようにして知りましたか

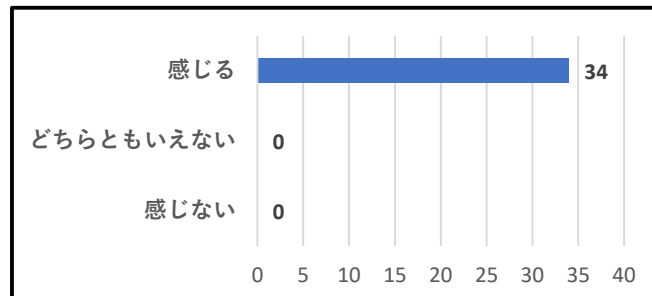
看護協会のチラシ	27
上司・スタッフの勧め	1
看護協会のホームページ	4



3 研修の内容について

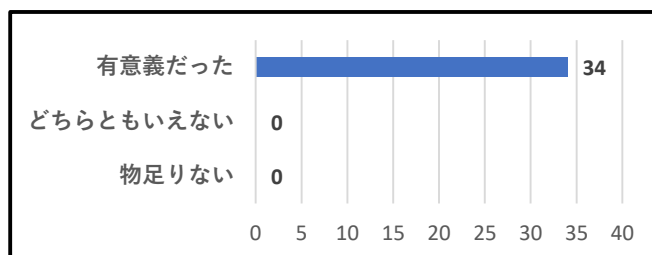
(1) 必要性を感じるものでしたか

感じる	34
どちらともいえない	0
感じない	0



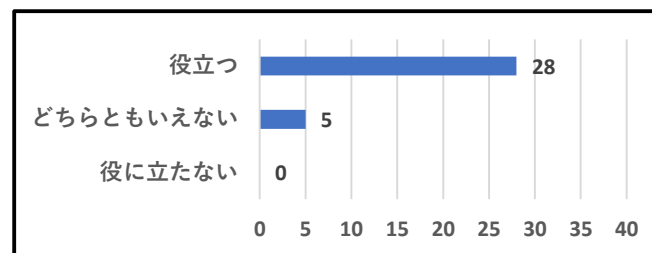
(2) 有意義でしたか

有意義だった	34
どちらともいえない	0
物足りない	0



(3) 今後の職務に役立つものでしたか

役立つ	28
どちらともいえない	5
役に立たない	0



4 研修会の感想・お気づきの点

- ・ コミュニティナースについて曖昧な情報しか知らなかったのですが、とても良くわかりました。身近なところで何ができるのかもっと考えたいです。
- ・ 看護職の新たな活動を知る機会となりました。受け身ではなく、また病院や行政の職員といった立場ではなく、一人の看護職として地域でどのように活動していくのか、とても考えさせられました。
- ・ 看護職医療職でなくても担える、活動の場はどこでも！というところが地域に必要だと思いました。仲間を集め、周囲の人達と作り上げることの重要性を感じています。なかなか地域や人とつながるのが難しい時代。だからこそ、コミュニティーナースが必要だと感じました。ありがとうございました。
- ・ 町の保健室をイメージしていたので、地域住民のつながりをつくることやワクワクしたことに取り組むなどコミュニティーナースのイメージが一転しました。どうやったら地域住民のニーズを捉えられるか、そこから考えて取り組んでいきたいと思いました。